

フリッツ・ラング…映像とそのイメージの原型

FRITZ LANG FILMBILDER VORBILDER

東京国立近代美術館
フィルムセンター展示室(7階)

2000年
1月11日[火] - 3月4日[土]
3月14日[火] - 3月25日[土]

開 室: 午前10時30分 - 午後6時
(入場は午後5時30分まで)
休館日: 日曜日、月曜日
および3月7日[火] - 3月11日[土]

入場無料
主 催: 東京国立近代美術館フィルムセンター

GOETHE INSTITUT 東京ドイツ文化センター

FRITZ LANG FILMBILDER VORBILDER

フリッツ・ラング…映像とそのイメージの原型

映画史上もっとも偉大な映画監督の一人であるフリッツ・ラング(1890～1976年)は、幾多の作品が内包する強烈なイメージの数々と、そこから現出する特異なビジョンとによって、20世紀の映像史の中に比類のない足跡を残しました。

本展覧会は、無声映画を中心とするドイツ時代の彼の映画を特徴づけた幻想感溢れるさまざまな視覚的イメージを、絵画やデッサン、彫刻、建築といった映画以外の芸術に現われて、彼自身に直接、間接に影響を与えたと思われるさまざまなイメージ、さらには本人の画家・彫刻家時代の作品とも比較しながら、ラング芸術の謎と秘密に迫ろうとするものです。

それはまた、青年期までのラングが生きた都市 — 世紀の変わり目に新旧の芸術を浴びることになった生地ウィーン、1911年から画学生として暮らしたアル・ヌーヴォー繚乱さなかのミュンヘン、軍隊生活の中にありながら彫刻に惹かれていった1915年、スロヴェニアのリュブリャナ、そして映画とアヴァンギャルドに出会うベルリン(1918年以降) — をめぐる旅でもあります。

企画者ハイテ・シェーネマンが、「さまざまなイメージ・コンセプトの歴史の一つとして映画の歴史を見せる展示」と語るように、そこには「死滅の谷」(1921年)、「ドクトル・マブゼ」(1922年)、「ニーベルンゲン」(1924年)、「メトロポリス」(1926年)といった傑作群から切り取られた数々の場面写真とともに、プリューゲル、チェシュカ、ユリウス・ティーツ、ブルーノ・タウトらによる絵画やデザイン画の複製、写真が並んで、ラングとその芸術的原風景を雄弁に語ってくれます。

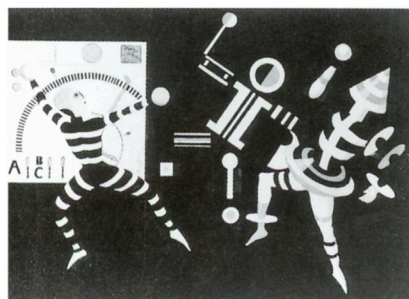
旧東ドイツのポツダム映画博物館とドイツ・キネマテーク財団等が協力して90年代のはじめに開催された同名展を原型とする本企画画は、60点の写真パネルからなる展示として、ゲーテ・インスティトゥートによって1995年から世界各国のフィルム・アーカイヴや文化施設を巡回し好評を得てきました。

フリッツ・ラング生誕110周年にあたる本年初頭をかざるこの展示と、3月に開催される「シネマの冒険 闇と音楽」におけるラング映画5作品のピアノ伴奏付き上映とによって、ラング芸術と彼の生きた時代についての新たな理解が深まることを願っています。



「ニーベルンゲン 第1部 ジークフリート」1924年

カール・オットー・チェシュカ、ゲルラッハ青少年文庫版「ニーベルンゲン」の挿絵 1909年



「メトロポリス」1926年

クルト・シュミット「制御盤で働く男」1924年

fiaf

N F C 東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
 The National Museum of Modern Art, Tokyo

東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

営団地下鉄銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
 営団地下鉄有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
 JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: NTTハローダイヤル 03-3272-8600
 東京国立近代美術館ホームページ <http://www.momat.go.jp/>

